

ステンレスについて

ステンレスは英語名でStainless Steelと表記され、直訳すると「ステンレス鋼」となり、これが日本での正式名称です。ステンレス鋼は含有されるクロム（Cr）が酸素と結びつき、表面に自己再生可能な薄く緻密な保護被膜（酸化被膜）を形成し、この保護被膜が外部の腐食要因から保護します。

お手入れ

ステンレスは定期的にお手入れをする必要があります。

特に工場地帯で煤や鉄粉が付着しやすい場所や、海岸が近く潮風にさらされている場所ではお手入れをおこたるとさびを誘発し、「もらいさび」を起こします。一般の場所であっても常に清浄に保つよう、定期的なお手入れが必要です。柔らかい布で、から拭きしてください。汚れのひどい場合は中性洗剤を含ませた布で拭いた後、水拭きしてください。その後、から拭きして水分を完全にに取り除いてください。ベンジン、シンナー、みがき粉、タワシなどを使って清浄することは避けください。変色、キズ、塗装ハクリの原因となります。

●清掃回数の目安

(1年あたりの回数)

材質	環境	海岸地帯	工業地帯	市街地	田園地帯
ステンレス(素地)		10～20	6～10	4～8	2～4



注意

海岸地帯、工業地帯などの環境では比較的早くサビが発生し、台風通過時には内陸部まで海岸地帯同様の塩害が発生することがあります。このような場合は、サビが発生する前にこまめにお手入れ（清掃）する必要があります。



注意

製品の細部までお手入れされる場合は、板金製のため手を切る恐れがありますので、必ずゴム手袋などで手を保護するようにしてください。

ステンレス製品のサビについて

ステンレスが腐食に対して強いのは、表面に独特の保護皮膜が形成されるからです。

この皮膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っていますが、ステンレスの表面が汚れてくると、酸素との接触が妨げられるのでサビが発生することがあります。従って、ステンレスは決して「サビない」ものではなく、むしろ「サビにくい」金属と言えます。一旦発生したサビは落とすことが難しいので、ステンレスの汚れに注意して日頃からこまめにお手入れをしてください。サビの発生を防ぐことができます。

塩害について

近年、塩害による被害が多く報告されています。塩害とは、塩分を含む風や雨・汚れなどが金属に付着することにより、腐食によって錆が発生する被害のことです。このような塩害被害は、一般的には塩害地域と呼ばれる海沿いの地域で多く発生しますが、海岸からの距離以外に風向き・強さなどの地域性および周囲の地形や建物の配置などの立地条件にも影響を受けるため、海岸線から遠く離れた内陸部にもその影響が及ぶことがあります。

以上のことから、商品選定の際には、既存の周辺諸設備の発錆状況なども十分考慮していただくことを推奨します。

クリーンメイク

金属・ガラスクリーナー

汚れのひどいステンレス・窓ガラス・焼付塗装面のフリーニングに！



クリーンメイク

¥1,400（税抜）

品 名：ステンレス・ガラス用磨き剤
正味量：320g
成 分：研磨材（6%ケイ酸アルミニウム系鉱物）
界面活性剤 有機溶剤 シリコーン

用 途

鏡面仕上げのステンレスサッシ・壁面パネル・焼付塗装仕上げのパネルやガラスの表面をキズつけずに、手垢・水垢を磨いて落とし素材の輝きを取り戻します。平らで滑らかな面にご使用ください。凸凹な面（エッチング・ヘアライン仕上）に使用すると拭き取りむらの起こる場合があります。

使用方法

- 容器ごとよく振ってから、柔らかい布につけて汚れを落としながら塗り広げてください。
- 乾いてから柔らかい乾布でよく拭き取ってください。

使用上の注意

- 用途以外には使用しないでください。
- 幼児の手の届くところに置かないでください。
- 皮膚の弱い人は研磨材による摩擦でかぶれる恐れがあります。保護手袋をご使用ください。

応急処置

- 万一飲み込んだ場合は、水で口の中をよく洗い直ちに医師の診断を受けてください。
- 万一目に入った場合は、こすらずに直ちに水で十分に洗い流してください。